

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

396号

2024年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

**民主・進歩陣営は団結して、総選挙で尹錫悦政権に審判を下そう！****●尹錫悦政権に審判を下す重要な選挙**

韓国では4月10日に第22代国会議員選挙が行われる。韓国の国会は一院制で全300議席のうち地方区は小選挙区制で253議席、比例区が47議席だ。

現在の議席分布は、ともに民主党(第1野党)が158議席、国民の力(与党)が113議席、緑の正義党(緑の党と正義党が合併)が6議席、改革新党(元国民の力)が4議席、新しい未来(元ともに民主党)が2議席、進歩党が1議席、新進歩連合が1議席、無所属が12議席だ。

**●「準連動型****比例代表制」とは？**

前回選挙から「準連動型比例代表制」が導入された。巨大政党による議席の独占を許さず、地方区の獲得議席と比例の政党得票率を連動させることにより、小政党の国会進出を促進しようというのが目的で、比例代表47議席のうち30議席に適用される。

この制度によると、ともに民主党と国民の力が比例区でそれぞれ40%得票した場合、300議席の40%の120議席に相当するが、小選挙区ですでに120議席以上獲得している場合は比例区の議席は配分されない。

進歩党が3%獲得した場合、300議席の3%の9議席に相当するが、小選挙区で1議席獲得している場合は $9 - 1 = 8$ 議席が比例区として配分される。これが「連動制」だが、「準」がついているのは、その50%と定められているためで実際には $(9 - 1) \times 0.5 = 4$ 議席が配分される。

5年前の選挙で初めて導入されたが、ともに民主党が「ともに市民党」、国民の力(未来統合

党)が「未来韓国党」という衛星政党を作って選挙に臨んだために、連動型比例代表制の本来の趣旨は生かされなかった。今回も与党国民の力は前回と同様に衛星政党を作って選挙に臨むものと思われる。

**●民主・進歩陣営が比例連合政党**

「共に民主連合」結成に合意

ともに民主党と進歩党と新進歩連合の3野党と連合政治市民会議は2月21日、総選挙において比例代表及び地域区候補など連合方案に最終合意した。

比例区については比例連合政党である「ともに民主連合」を結成し、進歩党と新進歩連合が推薦する候補者各3人と、連



▲野党の比例連合政党「共に民主連合」が結党(3/3)

合政治市民会議の推薦候補(国民候補)4人を名簿に配置し、残りとともに民主党が推薦する候補を配置することにした。比例代表候補者名簿は、国民候補から始め交互に配置し30番まで作成する。進歩党と新進歩連合と国民候補が優先的に上位に位置付けられているので、進歩陣営から10名全員が当選する可能性が高い。

地方区においても、ともに民主党と進歩党と新進歩連合は候補が競合する地域区で、世論調査方式の予備選挙を経て候補を一本化することにした。緑の正義党などその他の野党との連帯が残された課題だ。

在日同胞は比例区のみ投票できる。投票日は3月27日から4月1日だ。尹錫悦政権に審判を下すため貴重な一票を投じよう。(金五)

## 4月の総選挙に勝利し、南北の和解と 朝鮮半島の平和を実現しよう！

### 韓統連セミナー2024

韓統連大阪本部主催による今年最初の韓統連セミナー「韓国政治の現在地と進歩政治の展望—韓国四月総選挙、民権勝利実現のために—」が2月4日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

セミナーでは、金隆司(キム・ユンサ)大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「4月に実施される韓国総選挙は尹錫悦政権を審判して弾劾に追い込むのか、または尹政権のレイムダックが始まるのか、今後の韓国社会を占う重要な選挙です。今日のセミナーを通じ韓国政治の現状などについて認識を深めましょう」と語った。



#### ▲総選挙をめぐる情勢について熱心に報告を聞く参加者

次に、金昌範(キム・チャンボム)副代表委員が報告を行った。金副代表は▲尹錫悦政権の現在地、▲南北関係の変化、▲野党連合と進歩政治の展望と3章に分けて報告を行うとともに、韓国の政党の性格分類を解説しながら、「今回の総選挙では野党が最大限団結して選挙に勝利し、尹政権を引きずり下ろし、民衆が生きやすい社会の発展を志向し、南北和解の復活と平和な朝鮮半島の実現につなげなければならない」と語った。

報告後は活発な質疑討論、崔誠一(チェ・ソウル)事務局長から総選挙に向けた在外選挙人案内と今後の行事紹介が行われ、最後に金昌五(キム・チャンオ)副代表委員が閉会辞を行った。

## 米国の侵略と戦争の歴史を振り返り、 平和の大切さを描く！

### 「WARmerica(ウォーメリカ)の運命」上映会

昨年、朝鮮戦争停戦協定締結70周年の節目に制作され、韓国各地で上映されたドキュメンタリー映画「“WARmerica(ウォーメリカ)の運命”上映会(主催:同実行委員会)」が2月19日(月)、東成区民センター小ホール(大阪市東成区)で開かれた。

同映画は米国が建国以降、侵略と戦争を繰り返しながら莫大な利益と一極支配を確立する過程を描くとともに、現在の国際的な多極化時代を迎え、米国の衰退と米国内における深刻な格差問題などを描いた内容になっている。



#### ▲映画製作の想いなどを語る金哲民監督(撮影:中山茂氏)

映画上映後には、同映画の監督である金哲民(キム・チョルミン)氏が紹介され、映画を製作した経緯などが語られた。

金監督は「昨年、朝鮮戦争停戦協定70周年を迎え、なぜ戦争が起こったのかを知らなければならないと考えた」と述べながら「現在、世界的に米国の一極支配が終わろうとしているが、韓国と日本は今も米国に追随している」と指摘し、「朝鮮半島と東アジアの平和のために闘っている人々がいる。この人たちの力になりたくて映画を製作した」と語るとともに、「今、朝鮮半島でいつ戦争が起こるか分からない危機的状況を迎えている。韓国・日本の市民から平和実現の声を上げていこう」と訴えた。



## コリアンユースフェスティバル24を開催しました

在日韓国青年同盟（韓青）は、2月23日から25日までの2泊3日の日程で「コリアンユースフェスティバル（第59回全国冬期講習会）」を京都で開催しました。

開催に当たっては、ウトロ地区のフィールドワークを韓青で開催したいという各地方からの要望により、京都での開催が決定しました。それに伴い従来の冬期講習会から趣向を変え、企画等も若い世代を中心に新しい試みが多く行われました。

1日目のフィールドワークではウトロ平和祈念館を訪問し、ウトロ地区の歴史から在日の渡航史、人権獲得への闘い、また祖国の平和統一のための活動など、私たちの先輩が歩んできた道筋を垣間見ることができました。その後のフィールドワークでは、ヘイトクライムにより焼失してしまった現場を目の当たりにし、怒りと悲しみで涙を流す参加者もいました。



▲ウトロ平和祈念館前での記念写真

宿舎に移動して開会式の後、最初の班別は主に自己紹介、講習会参加のきっかけ等が語られ、お互いを知って打ち解けるほど和気あいあいとした雰囲気の中で進められました。夜には韓青兵庫本部の若さあふれる漫才でさらに雰囲気は盛り上がり、レクリエーションで班の団結力は高まりました。

2日目は朝食後、参加者全員で「마워처럼（岩のように）」を元気よく歌い日程を開始。宿舎内のBBQができるテラスで、参加者全員で協力してビビンバを作る「統一ビビンバ」企画を開催。野菜を切ったり、肉を焼いたり、それぞれが担当の料理を楽しみながら、やがて一つの大きなビビンバができたとき、ささやかながら統一祖国に思いをこめつつ、全員で作った格別な味を楽しみま

### 韓青大阪府本部委員長 趙暎和(チヨ・ヨンファ)

した。午後は近くの体育館に移動してテコンドー企画、スポーツ企画で大いに盛り上がり、また一段と班の団結力も高まりました。その甲斐もあって、その後の班別討論は白熱したものとなり、自らの民族性に対する悩みを打ち明けながら、涙を流す参加者の姿もみられました。



▲完成した統一ビビンバを中心に記念写真

夕食後は今回の講習会に参加した各地方本部から、この間の活動に関する報告と質疑応答が行われました。この間、コロナ禍が少しずつ和らいできたこともあり、コロナ以前のように活動ができるようになった一方で、活動に参加する青年が減ってきている現状も見られました。その中でも講習会に参加した青年から韓青に対する思いや、自身の今後の民族、差別との向き合い方について貴重な意見を聞くこともでき、この日は夜遅くまで交流が続きました。

最終日は、韓成祐（ハ・ソウ）韓青中央本部委員長による情勢講演が行われました。講演は、この間の朝鮮半島を取り巻く緊迫した情勢と、それを打破するために韓青をはじめ在日青年に何ができるかを問うもので、その後の班別討論でも「4月の総選挙の投票に行こうと思う」「宣伝活動に参加してみたい」などといった具体的な行動を提案、決意する声も聞かれました。

名残惜しい中、最後の閉会式では参加者からの感想が語られ、最後に全員で「마워처럼」を歌い各々各地へと宿舎を後にしました。

## 勝ったぞ！「不二越強制連行・強制労働裁判」韓国大法院で勝利

井上 淳

やったぞ！ハルモニ（おばあさん）たち！原告ハルモニたちの大勝利だ！

1月25日、韓国大法院は「原告側個人の請求権は、1965年の日韓請求権協定の範囲には含まれない」として不二越の上告を棄却した。これで原告ハルモニに賠償を命じる判決が確定した。

零下15度と凍てつく真冬のソウル、この瞬間、韓国大法院前は人々の熱い、熱い、感動の嵐で包まれた。裁判に参加した原告たちの体は揺れた、各々の遺影を持った遺族の手も震え動いた。

感動と感激の嵐が体中を駆け巡る。

そうだ！私たちは勝ったのだ！日本で、そして韓国で、あしかけ30年にも及ぶ裁判に今日やっと決着がつけられたのだ！だが、同時に支援者としての私の胸には「私たちの闘いはこれからだ。まだ始まったばかりだ！」との思いもよぎる。

1月24日、ソウル行き格安航空便は、大きな土産物を手にした韓国の若者たちで超満員だった。「少子化が進行する韓国って嘘なのか？」こんな思いすらよぎった。そんな韓国パワーに圧倒されるスタートとなった。

探しあぐね、やつとたどり着いた。南Nソウルタワーの見える安宿。だが、ほとんど落ち着く間もなく、25日早朝からYテレビの取材が待ち受けていた。テレビクルーと同行で、お元気な原告宅を訪問し、挨拶の間もなく大法院に向かう。

「寒い、これが氷点下15度か。本当に寒い」。道路は凍り付きツルツル。まさに真冬のソウルだ。ソウル大法院前は勝利を確信した原告やご遺族の方々、支援者、そして数多くの報道陣で溢れている。韓国の法廷はオープンだ。日本のように傍聴制限はない。立ち見も、また傍聴の途中交代も可能だ。

裁判官は4人、しかし2人目で傍聴席が揺らぎ

始める。勝利だ。間違いなく勝利だ。3人目で傍聴者は席を立ち始め入口に向かう。法廷前の広場で勝訴報告集会。原告を中心に遺族、支援者が集まり始まる。ソウルの支援者代表の報告の後、原告のお話、日本の支援者の報告などが続く。「勝った」うれしさいっぱい報告だ。そして最後はやはり待ちに待った万歳三唱で終わった。

その後、近くの食堂に移動して簡単な勝利食事会。ここで原告や遺族の方々、光州など遠方からの支援者の報告も行われた。



▲大法院前で勝利を喜ぶ原告と支援者

翌日「龍山植民地歴史博物館」で、今後の方針などの打ち合わせを行う。その時、訴訟原告のお一人で裁判の長期化によって第一線から身を引いた形の原告から、私たち日本の支援者に対し「裁判の勝利おめでとう。長い間ご苦労さま。ありがとう」との労いの電話が入

る。「こんな電話をいただけるとは」より嬉しく、より裁判の勝訴を実感した。

この間、Yテレビ局は密着取材を行ってくれた。日本での報告集会や2月27日の不二越株主総会などの取材も含め3月に韓国内での放映が決まっている。大いに期待したいと思う。

さて、1月25日の大法院判決の後、日本政府の官房長官は記者会見で「この判決は1965年の日韓請求権協定に明らかに違反し、極めて遺憾だ」との見解を出した。私たち日本の支援者の闘いは、これからより一層本格化する。

三菱重工などとの連携強化と全国化、そして不二越への門前での闘い、株主総会での闘いなど様々な課題が待っている。

原告の高齢化の中、私たちに残された時間は無いのだという現実を直視して、全てに臨むことをあらためて思う。

## 【コラム】

## 濟州島のミカン

2月も過ぎ、そろそろミカンを剥く季節も終わろうとしている。今やそれほど多く食べることもないが、こどもの頃は冬になるたび、テレビを見ながらいくつものミカンを食べていた記憶がある。

現在、日本で広く流通している種のないミカン種は総じて「温州みかん」と呼ばれている。大規模な栽培が始まり広く普及したのは明治以降のことらしい。

韓国において、この温州みかんの産地といえば濟州島になる。近年は温暖化もあり、やや北方へ産地を広げつつあるが、伝統的なミカンの産地である濟州島はやはり重きが置かれており、知名度が高い。生産調整の中でブランド化も進められており、ミカンは濟州島のシンボルとも言える名産になっている。

濟州島のミカンの歴史は長い。三国時代に耽羅（濟州島）から百済にミカンが進貢されたという記録もある。高麗時代には耽羅から毎年貢物としてミカンが運ばれていた。1052年

（文宗6）に三司（錢穀の出納を掌る官庁）から耽羅のミカンの数量を改定するよう国王に奏上した記録がある。

「三司が奏じた。『耽羅國の歳貢である橘子（みかん）は、一百包子に改定し、永くこれを定制とするがよろしいでしょう』（『高麗史』文宗6年3月27日）」。

この当時、ミカンは貴重なものであり、庶民が滅多に食えるものではなかった。国内の産地といえば濟州島だけであり、他は対馬を通じて日本産が少量手に入る程度だった。祭祀や下賜におけるミカンの需要は大きなものがあり、より多くのミカンが求められた。

そうした中、濟州島や南海沿海に広くミカンを栽培しようとする動きがあった。1412年（太宗12）、濟州島の柑橘樹数百株を全羅道の順天などに移植するように命が下され、さらに1489年（成宗20）には、過酷な徴税に苦しむ濟州

島の柑橘樹所有者を保護し税を免じるよう命じた。

「これらの柑橘樹を植える者が居れば、それらの家は税を免じ、または厚く賞せよ。さすれば民は必ず喜んで樹を植えることだろう（『朝鮮王朝実録』成宗20年2月24日）」。

濟州島のミカン農家の保護育成を国王自らの命令として指示したという話だ。しかし、残念ながら朝鮮前期における南海沿海へのミカン移植の試みは失敗に終わった。後の記録を見れば、移植したが果実が実らなかったと書かれている。ミカンの生育は平均気温15℃、最低気温-5℃以上が望ましく、これを下回れば生産が安定しない。

かくして朝鮮王朝時代、濟州島のミカンは極めて



▲濟州島在来種の洞庭橘

て珍重されるものとなった。千両みかんとまではいかぬまでも、両班ですら一目置くような代物である。時の国王が折を見て、功臣たちにミカンを下賜したという記録も数多残っている。

また冬季の成均館（国立の最高教育機関）の学生たちにミカンを下賜し、あわ

せて試験を行う「黄柑製」という科挙があった。貴重なミカンを下賜することで学生たちの士気を高めたものだ。1536年（中宗31）に濟州島から進上されてきたミカンを下賜して製述試験の題を与えた事があり、その後の明宗代に定例の科挙となり黄柑製と称された。この科挙は長く続き、18世紀末の儒学者丁若鏞も黄柑製で首席を取った記録が残っている。

戦後になって農産物の供給が大幅に増え、濟州島のミカンは庶民も気軽に口にすることができるようになった。濟州島で栽培されるのも在来種ではなく温州みかんが中心となり、外国からの輸入オレンジに負けることなく頑張っている。ミカンが濟州島のシンボルであると考えれば、貴重な果実よりも、したたかで、庶民の味である方がふさわしく思える。（好）



【翻訳資料】

私たちの3・1運動は終わらない！

▲強制動員屈辱解決法による韓日関係改善拒否。  
▲自衛隊の朝鮮半島進出と韓米日軍事同盟反対。  
▲「力による平和」「自由の北進政策」拒否。▲  
戦争を招く韓米合同軍事演習と対北批判ビラ散布  
反対。

1日、ソウルにある大韓民  
国歴史博物館前で開かれた  
「3・1運動105周年自主  
平和大会」で朗読された自主  
平和宣言文の主な内容だ。

大会を主催した6・15南  
側委員会、全国民衆行動など  
市民社会団体参加者は「外勢  
と権力に対抗しようとした  
3・1運動精神を正しく継承  
し、朝鮮半島の自主と平和を  
破壊する人々を審判する」と明らかにし、▲屈辱  
外交と戦争を助長する尹錫悦政権審判。▲尹錫悦  
政権審判で3・1運動、民族自主、独立運動精神  
継承。▲歴史正義、主権、平和守護がスローガン  
として叫ばれた。

イ・ホンジョン6・15南側委員会常任代表議  
長は挨拶を通じ「私たちは朝鮮半島の平和のため  
の政治環境を構築するために、3月に実施される  
韓米合同軍事演習をはじめ朝鮮半島を戦争基地に  
する一切の軍事行動に反対するとともに、4月総

選挙を通じて反民主・反平和・反統一政策を行う  
尹錫悦政権を審判して、韓米日新冷戦同盟体制を  
北東アジア共同平和安保体制に転換するための民  
衆の平和同盟を強化していこう」と決意を明らか  
にした。



▲大会終了後、ソウル市内を行進する参加者

イ・ナヨン正義記憶連帯  
理事長は「日本による朝鮮  
半島の不法占拠と民衆収奪  
に抵抗し、主権を取り戻し、  
平和と共存の秩序を新たに  
立てようとした3・1抗争  
精神を継承して、不当な支  
配と不義な権力に憤然と闘  
った誇らしい民族の歴史を  
守ろう」と訴えた。

ヤン・ギョンス民主労総  
委員長は「日帝36年間、国の自主権を失ったと  
き、労働者は強制徴用に引きずられて死んだ。労  
働者が自主権を守ることができず、戦争に追い込  
まれたとき、最初の銃弾で犠牲になってきた」と  
述べながら、「私たち自身を守るための闘争を共  
に行う」と語り、「尹錫悦政権を終わらせること  
が自主であり、尹錫悦政権を没落させることが愛  
国だ」と声を高めた(韓国インターネット新聞“統  
一ニュース”3/2付より)。

◆◆行事案内◆◆

2024韓国総選挙を考える集い	連帯の夕べ
日時：3月24日(日) 午後1時30分 受付 午後2時 開会	日時：4月21日(日) 午後4時 受付 午後4時30分 開会
場所：KCC会館5階ホール 地下鉄今里駅下車2番出口から徒歩7分	場所：KCC会館5階ホール 地下鉄今里駅下車2番出口から徒歩7分
内容：講演「韓国国会議員選挙と私たちの課題」 講師：金昌五 韓統連大阪本部副代表委員 在外選挙人投票の案内 他	内容：第1部 記念講演 講師：宋世一 韓統連委員長 第2部 懇親会
参加費：800円(青年学生：500円)	参加費：4000円(記念講演会のみは500円)
主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)	主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)

編集後記  
久しぶりの編集後記です。3月になりましたが、まだまだ寒いですが、今年の花粉は飛ぶ時期も早く、そしてかなりキツイです。花粉の季節が終わるのが待ち遠しい。  
(ソン)

